

2—1 言語学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野は、対象言語・方法論を問わず、広く言語の全体像を把握するよう努めてきた。本専攻分野の現員は、教授2、准教授1であり、比較言語学、コーパス言語学、統語論等の分野で個人研究を推進し、教育に携わっている。特に、小泉准教授が代表者となっている科学研究費基盤研究(S)「OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」では、当研究室の他の教員も協力しつつ、学内および学外の研究者と共同研究により、語順選好の背後にある要因を明らかにして、言語を司る認知機構の解明に貢献しようとする先端的な研究プロジェクトを推進している。これらの活動の概要は、随時、研究室のホームページ (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/ling/>) などを通じて一般に公開している。在籍する学生についても、脳機能計測や行動実験、言語獲得を研究テーマとするものが増え、関連のテーマで学位を取得する者も出ている。それ以外の分野を専攻する学生に対しても、できるだけ図書や設備の充実により研究環境を整えた上で、研究成果の発表を積極的に行うよう指導している。ただし、学位取得者や大学院生の論文発表の数には年によりむらが見られる。

I 組織

1 教員数(2013年9月末現在)

教授:2

准教授:1

講師:0

助教:0

教授:千種眞一、後藤斉

准教授:小泉政利

2 在学生数(2013年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
44	0	6	16	0

3 修了生・卒業生数(2009～2013年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	7	2	0
10	8	1	0
11	3	5	0

12	12	3	1
13	0	0	0
計	30	11	1

*2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動(2009～2013年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	0	0	0

*2013年度は、7月末までの数字。研究科委員会報告済み1件を含まず。

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	4	3	0	0	7
10	3	1	0	0	4
11	2	3	1	2	8
12	3	0	1	0	4
13	2	1	1	1	5
計	14	8	3	3	28

*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	6	0	0	6
10	1	4	0	1	6
11	2	7	0	0	9
12	2	12	1	0	15

13	2	1	0	0	3
計	7	30	1	1	39

*2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

Satoshi Imamura & Masatoshi Koizumi “A Centering Analysis of Word Order in Japanese”

『言語科学論集』第20号 2011

李在濬「人間関係による意識と言語・非言語行動の違い-日韓大学生の感謝と挨拶程度
の場面に対する行動を中心に-」『言語科学論集』16 2012

李在濬「日韓の人間関係による言語使用の違い-親疎・上下関係を中心に」『日語日文学』60 大韓日語日文学会 2013

李惠正「「の」に対応する韓国語の「의 ui」の省略に関する考察 一名詞による連体修飾
を中心に-」『言語学論集』18, 2009.

李惠正「前接形式からみた「から」と「ので」-推量の「らしい」と「ようだ」を用いて-」『言語
科学論集』14, 2010.

李惠正「日本語コーパスからみた接続助詞「から」と「ので」」『日語日文学』52, 2011

李惠正「接続助詞「から」「ので」と推量表現-日本語コーパスを用いて」韓国日本学連
合会 国際学術大会発表論文集 2011

李惠正「接続助詞「から」「ので」-日本語コーパスを用いて」『日語日文学』53 韓国/
大韓日語日文学会 2012

李惠正「文体の違いからみた接続助詞「から」と「ので」-丁寧体と普通体を比較して」『日
語日文学』55 韓国/大韓日語日文学会 2012

李惠正「接続助詞「から」「ので」の接続文体について-日本語コーパスを用いて」『日語
日文学』第57巻 大韓日語日文学会(韓国) 2013

Aoyagi, Hiroshi and Sachiko Kato. “On Information Packaging of Topicalized and
Scrambled Sentences in Japanese,” Current Issues in Unity and Diversity of
Languages: Collection of the papers selected from the 18th International Congress of
Linguists, Linguistic Society of Korea: 276-294, 2009

Naoki Kimura “Raising-to-Object in Japanese and the Role of Topic/Nominative Case
Markers in the Cognitive Processing,” IEICE Technical Report 108, 2008.

河内健志「英語における有方向移動動詞の補部の統語範疇について」『比較文化研
究』85: 89-100, 2009.

- 金春香「第二言語習得による第一言語への統語的影響—中国朝鮮族をモデルに—」
『言語科学論集』13, 2009.
- 金春香「中国朝鮮族の二言語使用について」『言語科学論集』14, 2010.
- 金春香「中国朝鮮族小学校のバイリンガル教育について」『日本研究 I』2011.
- 金春香・金情浩・千種眞一「中国朝鮮族児童の L2 習得による L1 使用への影響について」『言語学論集』20, 2011.
- 須田孝司「初級・中級英語学習者の文処理方略」『富山県立大学紀要』20, 2009.
- 須田孝司「より良い支援策を求めて」『英語教育』Vol.60 No.7, 2011[書評]
- 須田孝司「学習言語とは何か」『英語教育』2011 年[Book Reviews]
- 孫猛「第二言語としての日本語のテンス・アスペクト形態素の「形」の習得に影響する要因」『言語科学論集』13:29-44, 2009.
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得におけるプロトタイプの形成」『言語科学論集』14, 2010.
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」『言語学論集』19, 2010.
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「日本語「テイル」形の習得に関する一考察—学習者の語彙能力の推移という視点から—」『日语教育和日本学研究—大学日语教育研究国際研讨会论文集』2012
- Farzane Mohebi “Comparative Studies of the Relationship between Specificity and Scrambling and the Effect on the Scope of the Object in Persian and Japanese”『言語科学論集』13, 2009.
- Einar Andreas Helgason “On the grammatical category of spurious resultative predicates”
『言語科学論集』15, 2011.
- 尹惠靖「Yahoo!知恵袋の質問文における「前置き」及び「後置き」の使用に関する一考察」韓国日語日文学会 2013 年夏国際学術大会予稿集 2013
- 尹惠靖「일본어 의뢰 E-mail 에 있어서의 전치(前置)표현과 후치(後置)표현의 사용과 그 의도에 관한 일고찰(日本語の依頼 E-mail における前置き表現と後置き表現の使用とその意図に関する一考察)」『日本語のコミュニケーションの研究(仮タイトル、単行本)』2013
- 劉寧「日中両言語における呼称詞についての対照研究—ポライトネス理論の観点から—」『東北大学言語学論集』第 22 号 2013

(2) 口頭発表

- 今村怜・小泉政利「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」第144回
日本言語学会, 2012年6月16日, 東京外国語大学
- 李在濬「人間関係と意識から見られる言葉遣いの違い—韓日の文化的要因と親疎・上
下関係—」韓国日本語学会 2012年9月15日 Hanbat National University
- 李惠正「日本語コーパスを用いた接続助詞「から」「ので」—前件を中心に」韓国日本学
連合会 第9回国際学術大会 2011年
- 李惠正「接続助詞「から」と「ので」に関する一考察 —前件のモダリティとの共起を手掛
かりにして—」第4回コーパス日本語学ワークショップ 2013年9月5日 国立国語
研究所
- Einar Andreas Helgason “Event structure and agreement violations in Icelandic
resultatives” 日本言語学会 第145回大会 2012年11月24日 九州大学
- Hiroshi Aoyagi and Sachiko Kato “On information packaging of topicalized and
scrambled sentences in Japanese” The 18th International Congress of Linguists, July
21-26, 2008, Korea University
- 高橋純一・鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・加藤幸子・小泉政利・行場次朗・萩原裕子
「幼稚園年長期における母語意味処理に関わる ERP におよぼす非母語活動の影
響」第11回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2009年5月
- 酒見和樹・杉本英樹・加藤幸子・猪俣克弘・中西英二「アルミナ含有透明低線膨張フィ
ルムの調製」第60回高分子討論会 2011年9月28日 岡山大学
- 杉浦茉奈美・萩野敬広・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「透明シリコン/ク
レイハイブリッド材料の調製」第60回高分子討論会 2011年9月28日 岡山大学
- 伊藤宏和・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「撥水・撥油性を示す有機-無機
透明ハイブリッド材料の調製」第60回高分子討論会 2011年9月28日 岡山大学
- 水野あすか・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「重合性ポリウレタン粒子を添加
した耐衝撃性 PMMA の調製」第60回高分子討論会 2011年9月28日 岡山大学
- 神田瞬・西野剛・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「撥水性を有するシリコン
含有ハードコート材料の調製」第60回高分子討論会 2011年9月28日 岡山大学
- 酒見和樹・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西 二「アルミナ含有透明低線膨張材料
の調製」第61回高分子学会年次大会 2012年5月29日 パシフィコ横浜
- 杉浦茉奈美・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「層間重合による透明アクリル/
クレイハイブリッド材料の調製」第61回高分子学会年次大会 2012年5月29日 パ
シフィコ横浜
- 水野あすか・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「重合性ポリウレタン粒子を添加

した耐衝撃性 PMMA の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

神田瞬・西野剛・山盛浩明・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西 英二「撥水性を有するハードコート材料の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

秋濱秀宣・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「ガラス飛散防止透明コーティング材料の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

今村 謙・酒見 和樹 1・池野 翔一・杉本 英樹・加藤 幸子・猪股 克弘・中西 英二「PMMA-PU ブロック共重合体を用いたクレイ含有透明低線膨張フィルム調製の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

藤井彰人・荻野敬広・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「シリコーン/クレイハイブリッド材料の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

伊藤宏和・畑和幸・杉本英樹・加藤幸子・猪股克弘・中西英二「超撥水性を示す有機-無機透明ハイブリッド材料の調製」第 61 回高分子学会年次大会 2012 年 5 月 29 日 パシフィコ横浜

Kato, Sachiko, Daichi Yasunaga, Ayaka Sugawara, Hadas Kotek, Miwako Hisagi, Michael Yoshitaka Erlewine, Shigeru Miyagawa, and Masatoshi Koizumi. "Blocking in Japanese Causatives: an ERP Study." The experimental syntax-semantic lab meeting, September 20, 2012, MIT.

河内健志 "Right periphery and cyclic linearization" 日本比較文化学会 2009 年度東北支部大会 2009 年 10 月 31 日 弘前学院大学.

河内健志「フェイズ理論に フェイズ理論に フェイズ理論に おける右周辺部 おける右周辺部 おける右周辺部 現象と線形 順序化」日本比較文化学会 2010 年 12 月 11 日 弘前学院大学.

菊池清一郎「スペイン語・カタロニア語・ガリシア語における強勢による形態音韻的非対称性の研究」Phonology Forum 2009, 2009 年 8 月 25 日 神戸大学

金春香「バイリンガル児童の L2 習得による L1 使用への影響について-中国朝鮮族を対象として-」中日韓朝言語文化比較研究会 2011.08.23 中国延辺大学.

金春香「第二言語習得による第一言語への影響について-中国朝鮮族を対象として」第二言語習得学会 2011.06.11 文教大学.

金春香「バイリンガル児童の言語使用について」母語・継承語・バイリンガル教育研究 2011.08.06 立命館大学

Kseniya Bogdanova "A Few Notes on the Praphrase of Reflexive Passive and 3d Person Plural Constructions" Constructional & Lexical Semantic Approaches to Russian
2013年9月12-14日 サンクトペテルブルグ

朴備徑「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」日本言語学会 2012年11月24日 九州大学

須田孝司「L2 統語処理における語彙情報」日本第二言語習得学会 第9回大会 2009年5月31日 中央大学

須田孝司「文処理における統語構造の影響」2009年 J-SLA 夏季セミナー 2009年8月28日 八王子セミナーハウス

須田孝司「Filler-Gap 依存における L2 熟達度の影響」日本認知科学会 第26回大会 2009年9月10日 慶應義塾大学

須田孝司「初期段階の第二言語学習者は語彙情報だけを使うのか？」日本第二言語習得学会第10回年次大会 2010年6月13日 岐阜大学

須田孝司「初期段階の第二言語処理における手がかり」言語科学会第12回年次国際大会 2010年6月27日 電気通信大学

須田孝司「早期英語教育って、、、」富山県立大学市町村連携公開講座 2010年7月17日 高周波文化ホール

須田孝司「実験心理学的手法によるデータ収集」日本第二言語習得学会 2010年度夏季セミナーワークショップ 2010年8月21日 八王子セミナーハウス

須田孝司「日本人英語学習者による受身の処理」日本第二言語習得学会 2010年度夏季セミナー 2010年8月22日 八王子セミナーハウス

Suda, Koji "The effects of syntactic and semantic information on L2 processing at early stages" 6th International Conference on Language Acquisition, 9/10/2010, University of Barcelona

須田孝司「日本人英語学習者の文処理における作動記憶容量と習熟度の影響」日本第二言語習得学会 2012年6月2日 法政大学

Yusa, Noriaki, Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Motoaki Sugiura, Sanae Yamaguchi, Satoru Yokoyama, Kei Takahashi, Yoko Mano, Youngho Cho, Ryuta Kawashima. "The Impact of Social Interaction on the Post-Puberty Second Language Acquisition of Syntax." 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. June 6-10, 2010, the Catalonia Palace of Congresses, Barcelona, Spain.

尹惠靖「電子メディアのコミュニケーションにおける展開パターンに関する一考察—Yahoo!知恵袋の質問を資料にて—」韓国日語日文学会 2012年12月17日 韓国

ソウル

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし。

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 PD 1

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2012年度 学部 ウプサラ大学 スウェーデン 1名

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
09	4	0	4
10	1	0	1
11	2	1	3
12	0	6	6
13	0	1	1
計	7	8	15

6 社会人大大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	1	1
12	1	0	1
13	0	0	0
計	1	1	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

宋殷美(白石藝術大学外国語学部助教授、2009年度)

7-2 専攻分野出身の高度職業人

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北大学 言語学論集』 年刊

『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』年刊(言語科学専攻として発行)

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年

言語学講演会 傍士元(University of Southern California) “Toward A Scientific Study of the Language Faculty: a proposal and implications”.

言語学講演会 吉田方哉(Northwestern University) “The Processing of Sluicing”.

言語学講演会 玉岡賀津雄(名古屋大学) 「構造方程式モデリング (Structural Equation Modelling) を使った外国語としての日本語習得研究」.

公開シンポジウム、「統語構造と文脈—言語認知脳科学の可能性—」.

2010年

言語学講演会 外池滋生(青山学院大学) 「ミニマリスト・プログラムと日英語比較統語論」.

2011年

言語学講演会 池本優(Ph.D. エセックス大学) 「日本語使役動詞の心理言語学研究」

2012年

言語学講演会 Hadas Kotek (MIT) Experimental investigations of *Most*

言語学講演会 菅原彩加氏 (MIT) Nature of QR Evidence from first language acquisition of ACD (joint work with Hadas Kotek)

言語学講演会 久木身和子氏 (CUNY & MIT) Brain Bases of Language Acquisition: ERP indices of speech processing in Monolinguals, Bilinguals & Second Language Learners

言語学講演会 Michael 芳貴 Erlewine (MIT) Kaqchikel Agent Focus: new evidence from multiple extraction constructions

言語学講演会 宮川繁 (MIT) Is human language made up of two fundamentally different "language" systems found in the animal world?

言語学講演会 島田純理(PhD. MIT) Self-Unfolding Trees: Morphosyntax and Semantics of Head Movement

言語学講演会 Kazuko Yatsushiro and Uli Sauerland (ZAS Berlin) "The Complex Syntactic Structure of Question Acts"

言語学講演会 Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Patterns in Person Paradigms: A Statistical Approach"

2013 年

言語学講演会 Kazuko Yatsushiro and Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Children are More Pragmatic than Adults in Relative Clause Production"

言語学講演会 Uli Sauerland (ZAS Berlin) "Obligatory Presuppositional Marking and Alternative Semantics"

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

小泉准教授と大学院生らが、広島大学教育学部の酒井弘准教授と協力して、毎年、海外から講師を招聘して認知脳科学の研究会(セミナー)を開催している。世界最先端の研究を行っている国内外の研究者と交流し研究情報の交換をするとともに、大学院生や若手研究者に英語で研究発表をし、英語で議論する練習をする場を提供することも目的の一つとしており、そのため、例年、大学院生にセミナー参加費用の一部を補助し、参加しやすい環境を提供している。

13 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

現在の教員の主たる研究の関心は、比較言語学、コーパス言語学、理論言語学・言語認知脳科学と多様であるため、専攻分野として統一的な活動はしにくいところもあるが、小泉准教授が代表者となっている科学研究費基盤研究(S)「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」には、他の教員も協力しており、相互補完的な関心の広がりの中にむしろ専攻分野としての活力を示していると言える。現在、本専攻分野においては准教授 1 名が欠員であるが、現員において可能な限りカバーし、研究と教育の広がりと深さを確保すべく努めている。

とりわけ、小泉准教授は新しい分野である言語認知脳科学の開拓に積極的に取り組み、学内および学外の研究者・研究室と共同して fMRI や脳波計などの非侵襲的脳機能計測器を用いた文処理・文理解の研究および言語獲得の研究に力を入れており、その成果は国内ではもちろん、国際的にも高く評価されている。また、後藤教授が整備してきたオンラインデータベースは、人文科学および言語学分野の信頼できる情報源として定評あるもので、国内外から広く利用されている。

本専攻分野では従来から図書や専門雑誌の充実につとめてきており、音声分析装置等の機器類も早くから備えてきた。近年には脳波形、光トポグラフィ装置等の設備を設置し、実験室を充実させて、研究に活用している。しかし、予算の制約から、一部の雑誌については購読を取りやめざるをえない状況になっている。

大学院学生では、従来は理論言語学や個別言語学など伝統的な分野を専門とする者が多かったが、近年は脳機能計測や行動実験、言語獲得を研究テーマとする者が増えてきた。この分野は学際的な性質をもっているため、そのような学生に対しては可能な限り他研究科や他機関の研究者・研究室との交流を持つよう指導しており、学生からも自発的な活動も散見されるようになってきた。学位取得者には、年によりむらがある。それ以外にも、本研究室では毎年『東北大学 言語学論集』および国語学研究室・日本語教育学研究室と共同して『東北大学大学院文学研究科 言語科学論集』を毎年発行している。両論集とも大学院生が主な執筆者となり、学内・外の研究室・研究機関に配布しており、自身の研究を定期的にまとめ上げる機会を提供できているものと考えている。ただし、残念ながら大学院の入学者・進学者は数として多いとはいえ、大学院生の論文発表数も伸び悩んでおり、今後の研究活動の活性化のためには課題である。

III 教員の研究活動(2009～2013年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

千種眞一「古典アルメニア語新約聖書における談話標識について」、『東北大学言語学論集』18, 1-19, 2009.

千種眞一「アルメニア語新約聖書における罪と報い」、『東北大学言語学論集』19, 1-16, 2010.

後藤斉「少数言語におけるコーパス利用に関する一考察」『科学研究費ロシアおよびその周辺の少数言語のコーパスの構築と記述的・歴史的研究 研究成果報告書』, 47-58, 2009. (科学研究費補助金 基盤研究 (A) #18202010)

後藤斉「言語学のなかの計画言語論」木村護郎クリストフ・渡辺克義編『媒介言語論を

- 学ぶ人のために』(世界思想社), 254-274, 2009.
- 後藤斉「コロケーションを考えるためのいくつかの視点」、『日本エスペラント学会 2010 年度研究発表会予稿集』、(日本エスペラント学会)、2010.10
- Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Naho Ikuta, Yuichiro Fukumitsu, Naoki Kimura, Kazuki Iwata, Jobu Watanabe, Satoru Yokoyama, Shigeru Sato, Kaoru Horie, Ryuta Kawashima. “Scrambling effects on the processing of Japanese sentences: An fMRI study.” *Journal of Neurolinguistics* 22-1, 151-166, 2009.
- 小泉政利「日本語二重目的語動詞の概念構造と統語構造」由本陽子・岸本秀樹(編)『語彙の意味と文法』pp. 285-305, 2009 年 2 月
- Koizumi, Masatoshi. “Cognitive Neuroscience of Scrambling.” Hiroto Hoshi (Ed.) *The Dynamics of the Language Faculty*, Kurosui Publishers, pp. 231-251, March 2009.
- 犬伏知生・飯島和樹・小泉政利・酒井邦嘉「日本語二重目的語文の脳内処理における基本語順の効果」、『日本言語学会第 138 回大会予稿集』 pp. 286-289, 2009 年 6 月.
- Koizumi, Masatoshi. “Neurophysiological effects of early L2 exposure on the development of L1.” *Proceedings of the 2009 Summer Special Conference of the New Korean Association of English Language and Literature: The Brain and Language*. pp. 33-43, August 2009.
- 小泉政利「第 6 章 言語」村上郁也(編著)『イラストレクチャー 認知神経科学』pp.89-106. オーム社. 2010.
- Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. “A robust method to detect dialectal differences in the perception of lexical pitch accent.” *Proceedings of 20th International Congress on Acoustics*, 1-8, 2010.
- Koizumi, Masatoshi, and Katsuo Tamaoka. “Psycholinguistic evidence for the VP-internal subject position in Japanese.” *Linguistic Inquiry* 41: 663–680, 2010.
- 小泉政利「文の産出と理解」、遊佐典昭(編著)『言語と哲学・心理学』pp.219-248. 朝倉書店. 2010.
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得におけるプロトタイプ形成」、『東北大学言語科学論集』14 号, pp.27-38. 2010.
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」、『東北大学言語学論集』19 号, pp.47-59. 2010.
- 小泉政利「幼稚園での英語活動が母語の意味処理の発達に与える影響」、『基礎心理学研究 29』pp. 155-158. 2010.

- Takahashi, Junichi, Yuika Suzuki, Hiroshi Shibata, Yuichiro Fukumitsu, Jiro Gyoba, Hiroko Hagiwara, Masatoshi Koizumi. "Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children." *Neuroscience Research* 69, 246–251. 2011.
- Yusa, Noriaki, Masatoshi Koizumi, Junggho Kim, Naoki Kimura, Shinya Uchida, Satoru Yokoyama, Naoki Miura, Ryuta Kawashima, Hiroko Hagiwara "Second-language instinct and instruction effects: Nature and nurture in second-language acquisition." *Journal of Cognitive Neuroscience* 23: 2716-2730. 2011.
- Souta Hidaka, Hiroshi Shibata, Michiyo Kurihara, Akihiro Tanaka, Akitsugu Konno, Suguru Maruyama, Jiro Gyoba, Hiroko Hagiwara, Masatoshi Koizumi "Effect of second language exposure on brain activity for language processing among preschoolers." *Neuroscience Research* 73:73-9. 2011.
- Imamura, Satoshi, and Masatoshi Koizumi "A centering analysis of word order in Japanese." *Tohoku Studies in Linguistics* 20: 59-74, 2011.
- 久保拓也・小野創・田中幹大・小泉政利・酒井弘 「VOS 言語において有生性が語順に与える影響 –カクチケル語における線画描写課題での検討」、『信学技報』(電子情報通信学会技術研究報告 TL2011)、vol. 111、pp.19–24. 電子情報通信学会. 2011.
- 大滝宏一・杉崎鉦司・遊佐典昭・小泉政利 「カクチケル語における項削除の可否について」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp. 28-33. 2011.
- 小泉政利・金情浩・木山幸子・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián 「SO 語順選好は普遍的か？ —カクチケル・マヤ語の聴解実験による検証—」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp.274-279. 2011.
- 小泉政利・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián 「多言語使用—グアテマラの挑戦」、『日本言語学会第 143 回大会予稿集』、pp.358-363. 2011.
- 孫猛・小泉政利 「副詞と主語の語順から見た中国語節左方周縁部の階層構造」、影山太郎・沈力(編)『日中理論言語学の新展望 1 統語構造』pp.85-107. くろしお出版. 2011.
- Koizumi, Masatoshi, Junggho Kim, Naoki Kimura, Satoru Yokoyama, Shigeru Sato, Kaoru Horie and Ryuta Kawashima "Left Inferior Frontal Activations Differentially Modulated by Scrambling in Ditransitive Sentences." *The Open Medical Imaging Journal* 6: 70-79. 2012.

- Inubushi, Tomoo, Kazuki Iijima, Masatoshi Koizumi, Kuniyoshi L. Sakai “Left inferior frontal activations depending on the canonicity determined by the argument structures of ditransitive sentences: An MEG study.” *PloS ONE* 7(5): e37192. 2012.
- 今村 怜・小泉 政利「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」、『日本言語学会第 144 回大会予稿集』、pp 86-91, 2012.
- 朴 備徑・小泉 政利. 「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」、『日本言語学会第 145 回大会予稿集』、pp 22-27, 2013.
- 那須川訓也・八杉 佳穂・小泉 政利. 「カクチケル語における韻律境界標識と音韻構造」、『日本言語学会第 145 回大会予稿集』、pp 52-57, 2012.
- 小泉政利「主語のスクランプリングは可能だ」、畠山雄二(編)『日英語の構文研究から探る理論言語学の可能性』、pp. 125-139. 開拓社. 2012.
- ガルシア、ロルマイ・ペドロ、大森裕巳、八杉佳穂、小泉政利「マヤ諸語の標準語化:カクチケル語の場合」、『言語学論集』21: 71-78, 2012.
- 八杉佳穂・小泉政利「カクチケル語の焦点化講文についての一考察」、『言語学論集』21: 61-70, 2012.
- アフシウィナック・シアン、フアン・エステバン、大森裕巳、八杉佳穂、小泉政利「カクチケル語の完了相における態変化」、『言語学論集』21: 49-60, 2012.
- 金情浩・八杉佳穂、Juan Esteban Ajsivinac Sian、Lolmay Pedro Oscar García Mátzar、小泉政利「カクチケル・マヤ語の統語的基本語順: 文解析実験を用いた検討」、『言語研究』143: 81-93, 2013.
- 安永大地・矢野雅貴・小泉政利・八杉佳穂. 「カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について」、『日本言語学会第 146 回大会予稿集』、pp 240-245, 2013.
- Kiyama, Sachiko, Katsuo Tamaoka, Jungho Kim, and Masatoshi Koizumi. “Effect of Animacy on Word Order Processing in Kaqchikel Maya.” *Open Journal of Modern Linguistics* 3 (3), 2013.
- Otaki, Koichi, Koji Sugisaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. “The Parameter of argument ellipsis: The view from Kaqchikel.” In Michael Kenstowicz (ed), *Studies in Kaqchikel Grammar*, pp. 153-162, 2013. MITWPL.
- Nasukawa, Kuniya, Yoshiho Yasugi, Masatoshi Koizumi. “Syllable structure and the head parameter in Kaqchikel.” In Michael Kenstowicz (ed), *Studies in Kaqchikel Grammar*, pp. 81-95, 2013. MITWPL.
- Koizumi, Masatoshi. “On the scramblability of the subject in Japanese.” In Masao Ochi (ed), *On Architecture of Natural Language*, Kaitakusha. (In press)

Sugisaki, Koji, Koichi Otaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. "The Acquisition of word order and its constraints in Kaqchikel: A preliminary study." Selected Proceedings of the 5th GALANA Conference. Somerville: Cascadilla Proceedings Project. (In press)

1-2 著書・編著

- 千種眞一『古典アルメニア語辞典』 大学書林, 2013.
後藤斉『エスペラントを育てた人々』 創栄出版, 2008.
後藤斉編『日本エスペラント運動人名事典』(共編) ひつじ書房, 2013.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 後藤斉「オンラインデータベース「国内言語学関連研究機関 WWW ページリスト」」
(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>)、「国内人文系研究機関 WWW ページリスト」(<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>)
- 後藤斉『『エスペラント日本語辞典』の使い方(11) 辞書とのつきあい方(上)』『エスペラント』第77巻1月号, 8-9, 2009.
- GOTOO Hitosi 'Pseudo-zamenhofaj ekzemploj en PIV: Testamente de S-ro Nomura' 『エスペラント』第77巻1月号, 10, 2009.
- 後藤斉『『エスペラント日本語辞典』の使い方(12) 辞書とのつきあい方(下)』『エスペラント』第77巻2月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉『『エスペラント日本語辞典』の使い方(13) 言語の習得 —まとめとして—』『エスペラント』第77巻3月号, 6-7, 2009.
- GOTOO Hitosi 'Instruado de Esperanto en Tokia Universitato pri Fremdaj Studoj' 『エスペラント』第77巻5月号, 20, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (1) afabla」『エスペラント』第77巻6月号, 8-9, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (2) adiam と is revido」『エスペラント』第77巻7月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (3) varma」『エスペラント』第77巻8月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (4) multa」『エスペラント』第77巻10月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (5) densa」『エスペラント』第77巻11月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (6) vera」『エスペラント』第77巻12月号, 6-7, 2009.
- 後藤斉「de vorto al vorto (7) klara」『エスペラント』第78巻1月号, 14-15, 2010.
- 後藤斉「de vorto al vorto (8) danki」『エスペラント』第78巻2月号, 7-8, 2010.
- 後藤斉「de vorto al vorto (9) bela」『エスペラント』第78巻3月号, 12-13, 2010.
- 後藤斉「de vorto al vorto (10) peni」『エスペラント』第78巻4月号, 12-13, 2010.

後藤斉「de vorto al vorto (11) flanko」『エスペラント』第 78 卷 5 月号, 12-13, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (12) profunda」『エスペラント』第 78 卷 6 月号, 12-13, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (13) tuj と baldaŭ」『エスペラント』第 78 卷 7 月号, 14-15, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (14) maniero」『エスペラント』第 78 卷 10 月号, , 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (15) zorgi」『エスペラント』第 78 卷 11 月号,12-13 , 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (16) riĉa」『エスペラント』第 78 卷 12 月号, 12-13, 2010.
後藤斉「de vorto al vorto (17) flui」『エスペラント』第 79 卷 1 月号, 15-16, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (18) forta」『エスペラント』第 79 卷 2 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (19) kosti」『エスペラント』第 79 卷 3 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (20) okazi」『エスペラント』第 79 卷 4 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (21) pluvo」『エスペラント』第 79 卷 6 月号, 11-12, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (22) peza」『エスペラント』第 79 卷 7 月号, 23-24, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (23) plori」『エスペラント』第 79 卷 10 月号, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (1)」『La Movado』707 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (2)」『La Movado』708 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (3)」『La Movado』709 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (4)」『La Movado』710 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (5)」『La Movado』711 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (6)」『La Movado』712 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (7)」『La Movado』713 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (8)」『La Movado』714 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (9)」『La Movado』715 号, 13, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (10)」『La Movado』716 号, 7, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (11)」『La Movado』717 号, 8, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (12)」『La Movado』718 号, 6, 2010.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (13)」『La Movado』719 号, 10, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (14)」『La Movado』720 号, 8-9, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (15)」『La Movado』721 号, 8-9, 2011.
後藤斉「エスペラントとハンセン病 —歴史的考察— (16)」『La Movado』722 号, 8-9, 2011.
後藤斉「Marta の二つの日本語訳 (1)」『La Movado』725 号, 8-9, 2011.
後藤斉「Marta の二つの日本語訳 (2)」『La Movado』727 号, 6-7, 2011.
後藤斉「エスペラント文化史の試み」『エスペラント』第 79 卷 11 月号, 20-24, 2011.
後藤斉「de vorto al vorto (24) morti」『エスペラント』第 79 卷 11 月号,11-12 , 2011.

後藤斉「de vorto al vorto (25) ŝuldi」『エスペラント』第 80 卷 1 月号, 12-13, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (26) nepre」『エスペラント』第 80 卷 2 月号, 9-10, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (27) ĝui」『エスペラント』第 80 卷 3 月号, 9-10, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (28) kreski」『エスペラント』第 80 卷 4 月号, 11-12, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (29) perdi」『エスペラント』第 80 卷 5 月号, 18-19, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (30) rekta」『エスペラント』第 80 卷 6 月号, 21-22, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (31) ligi」『エスペラント』第 80 卷 7 月号, 20-21, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (32) kapti」『エスペラント』第 80 卷 8 月号, 7-8, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (33) trafi」『エスペラント』第 80 卷 10 月号, 22-23, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (34) akra」『エスペラント』第 80 卷 11 月号, 23-24, 2012.
後藤斉「de vorto al vorto (35) favora」『エスペラント』第 80 卷 12 月号, 9-10, 2012.
後藤斉「世界人マラン」『エスペラント』第 80 卷 7 月号, 4-6, 2012.
後藤斉「Marta, 幻の第三の日本語訳」『La Movado』741 号, 4-5, 2012.

GOTOO Hitosi. 'Review: Detlev Blanke and Ulrich Lins (eds.). La arto labori kune: Festlibro por Humphrey Tonkin.' In: Language Problems and Language Planning 36:1, 95-97, 2012. 後藤斉「de vorto al vorto (36) ŝovi」『エスペラント』第 81 卷 1 月号, 20-21, 2013.

後藤斉「de vorto al vorto (37) trudi」『エスペラント』第 81 卷 2 月号, 20-21, 2013.

後藤斉「de vorto al vorto (38) simpla」『エスペラント』第 81 卷 3 月号, 20-21, 2013.

1-4 口頭発表

千種眞一「言語学における批判的規範主義の確立をめざして」(招待講演). 2009 年 3 月 11 日、東義大学校(韓国釜山)

千種眞一「日本語教育と規範言語学の役割」(「大韓日語日文学会 2009 年度秋季学術発表会」招待講演). 2009 年 11 月、新羅大学校(韓国釜山)

千種眞一「印欧語における人称標示をめぐる」(「The 18th Indo-European Colloquium of Japan」招待講演). 2009 年 12 月、大阪大学

千種眞一「日本語の誤用分析と社会言語学」(招待講演). 2010 年 9 月、延辺大学(中国・延辺)

千種眞一「日本語の生態と言語学」(「2011 年度日本語教育と日本語学国際シンポジウム」招待講演). 2011 年 5 月、同済大学(中国・上海)

千種眞一「再建と類型論—印欧祖語をめぐる—」(招待講演). 日本歴史言語学会 第 2 回大会. 2012 年 12 月、千葉大学.

後藤齊「コロケーションを考えるためのいくつかの視点」. 日本エスペラント学会 2010 年
度研究発表会(2010年10月9日、長崎ブリックホール)

後藤齊「エスペラントづいた柳田國男」. 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室
公開講演会 柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」(2011年
11月20日、東北大学)

高橋純一・鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・加藤幸子・小泉政利、行場次朗、萩原裕子
「幼稚園年長期における母語意味処理に関わる ERP におよぼす非母語活動の影響」第11回日本ヒト脳機能マッピング学会、2009年5月28-29日、ホテルオークラ
新潟.

犬伏知生・飯島和樹・小泉政利・酒井邦嘉「日本語二重目的語文の脳内処理における
基本語順の効果」日本言語学会第138回大会、2009年6月20~21日、神田外語
大学.

小泉政利(招待講演)「言葉を生み出す脳の働き」2009年7月10日、北九州市立大学.
Koizumi, Masatoshi. (Invited) “Psycholinguistic Evidence for the VP-Internal Subject
Position in Japanese.” Fukuoka Linguistic Circle, September 11, 2009, Fukuoka
University.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “Neurophysiological Effects of Early L2 Exposure on the
Development of L1.” The 2009 Summer Special Conference of the New Korean
Association of English Language and Literature: Brain and Language: The Brain and
Language, August 17-18, 2009, Pukyong National University, Busan, Korea.

Inubushi, Tomoo, Kazuki Iijima, Masatoshi Koizumi, Kuniyoshi Sakai. “The effect of
canonical word orders on the neural processing of double object sentences: An MEG
study.” The 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. September
16-18, 2009, Nagoya Congress Center.

Yamaguchi, Sanae, Cornelia Lupsa, Kensuke Emura, Naoki Kimura, Jungho Kim, Kuniya
Nasukawa, Masatoshi Koizumi, Hiroko Hagiwara, Yusa Noriaki. “Effects of L2 Input
Quantity on L2 Pronunciation.” The 1st International Conference on Foreign
Language Learning and Teaching. October 16-17, 2009, The Language Institute of
Tammasat University, Asia Hotel, Bangkok, Thailand.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “Experimental Syntax: What we can expect.” The 27nd
Annual Meeting of the English Linguistics Society of Japan. November 14-15, 2009,
Osaka University.

Yusa, Noriaki, Kuniya Nasukawa, Masatoshi Koizumi, Kim Jungho, Naoki Kimura and

Kensuke Emura. "Unexpected effects of the second language on the first." New Sounds 2010. May 1-3, Adam Mickiewicz University, Poznan, Poland.

Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. "The perception of non-native lexical pitch accent by speakers of 'accentless' Japanese dialects." The Fifth International Conference on Speech Prosody, Speech Prosody 2010. May 11-14, 2010, the Doubletree Magnificent Mile, Chicago.

小泉政利(招待講演)「幼稚園での英語活動が母語の意味処理の発達に与える影響」日本基礎心理学会 2010 年度第 1 回フォーラム、2010 年 5 月 22 日、東京大学本郷キャンパス.

Yusa, Noriaki, Jungho Kim, Masatoshi Koizumi, Motoaki Sugiura, Sanae Yamaguchi, Satoru Yokoyama, Kei Takahashi, Yoko Mano, Youngho Cho, Ryuta Kawashima. "The Impact of Social Interaction on the Post-Puberty Second Language Acquisition of Syntax." 16th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping. June 6-10, 2010, the Catalonia Palace of Congresses, Barcelona, Spain.

Utsugi, Akira, Masatoshi Koizumi and Reiko Mazuka. "A robust method to detect dialectal differences in the perception of lexical pitch accent." 20th International Congress on Acoustics. August 23-27, 2010, the Sydney Convention Centre, Sydney, Australia.

孫猛・玉岡賀津雄・宮岡弥生・小泉政利・安永大地. 「中国語母語話者による「テイル」の意味の習得について」日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、2011 年 5 月 21 日(土)～22 日(日)、同済大学、中国上海.

小泉政利(招待講演)「言語発達の脳科学—幼稚園での英語活動をめぐって—」、関西言語学会第 36 回大会、2011 年 6 月 11 日、大阪府立大学.

久保琢也・小野創・田中幹大・小泉政利・酒井弘. 「VOS 言語において有生性が語順に与える影響—カクチケル語における線画描写課題での検討—」、「思考と言語研究会」と MAPLL 2011 (Mental Architecture for Processing and Learning of Language 2011) 共催研究会、2011 年 8 月 5 日、広島大学.

小泉政利. (招待講演)「カクチケル語の理解と産出」、第 10 回関西心理言語学研究会 (KCP)、2011 年 9 月 9 日、関西学院大学.

小泉政利・金情浩・木山幸子・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián. 「SO 語順選好は普遍的か?—カクチケル・マヤ語の聴解実験による検証—」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

大滝宏一・杉崎鉦司・遊佐典昭・小泉政利. 「カクチケル語における項削除の可否について」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

小泉政利・八杉佳穂・Lolmay Pedro García Matzar・Juan Esteban Ajsivinac Sián「多言語使用—グアテマラの挑戦」、日本言語学会第 143 回大会、2011 年 11 月 26 日、大阪大学.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Word Order Preference in the Kaqchikel Mayan Language”. The Centre for General Linguistics (ZAS), Berlin Germany, May 16, 2012.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Processing”. 8th Workshop on Altaic Formal Linguistics, Stuttgart Germany, 20 May 2012.

今村怜・小泉政利. 「かき混ぜ文とゼロ目的語の談話機能における相補分布性」、日本言語学会第 144 回大会、2012 年 6 月 16 日、東京外国語大学.

小泉政利. (招待講演)「語順選好の認知脳科学」、2012 年 6 月 22 日 三重大学.

Koizumi, Masatoshi, Katsuo Tamoaka, Pedro García Matzar, Juan Ajsivinac Sian, Jungho Kim, Yoshiho Yasugi, Sachiko Kiyama. “Orden en el procesamiento de palabras en Kaqchikel.” Formal Approaches to Mayan Linguistics II, Patzun, Guatemala, August 3, 2012.

Nasukawa, Kuniya, Yoshito Yasugi and Masatoshi Koizumi. “Aspiration and prosodic structure in Kaqchikel”. LAGB Annual Meeting 2012, University of Salford, Manchester, September 6, 2012.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Comprehension (and Production).” Ling-Lunch, September 20, 2012, MIT.

Kato, Sachiko, Daichi Yasunaga, Ayaka Sugawara, Hadas Kotek, Miwako Hisagi, Michael Yoshitaka Erlewine, Shigeru Miyagawa, and Masatoshi Koizumi. (Invited) “Blocking in Japanese Causatives: an ERP Study.” The experimental syntax-semantic lab meeting, September 20, 2012, MIT.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “Experimental Syntax: Case Studies with Word Order in Sentence Processing.” Syntax of a Language (Family) Seminar, September 24, 2012, MIT.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the Universality of the Subject-Object Word Order Preference in Sentence Processing.” Formal Approaches to Japanese Linguistics 6, September 28, 2012, Humboldt University, Berlin, Germany.

Sugisaki, Koji, Koichi Otaki, Noriaki Yusa, and Masatoshi Koizumi. The Acquisition of Word Order and its Constraints in Kaqchikel: A Preliminary Study. The 5th Generative

Approaches to Language Acquisition-North America (GALANA 5), University of Kansas, October 11-13, 2012.

那須川訓也・八杉 佳穂・小泉 政利. 「カクチケル語における韻律境界標識と音韻構造」、日本言語学会第 145 回大会、九州大学、2012 年 11 月 24 日.

朴 備徑・小泉 政利. 「形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別」、日本言語学会第 145 回大会、九州大学、2012 年 11 月 24 日.

安永大地・矢野雅貴・小泉政利・八杉佳穂. 「カクチケル語の基本語順と選好語順の関係について」、日本言語学会第 146 回大会、茨城大学、2013 年 6 月 16 日.

Koizumi, Masatoshi. (Invited) “On the (Non-)Universality of ‘the Subject-before-Object Order Preference’ in Sentence Processing. July 10, 2013, National Tsing Hua University, Taipei.

小泉政利. (招待講演)「目的語の有生性がカクチケル・マヤ語の文処理負荷に与える影響について」、日本英語学会第 31 回大会、2013 年 11 月 10 日.

2 教員の受賞歴(2009～2013 年度)

小泉政利 日本言語学会第 143 回大会発表賞受賞(2011 年度)

小泉政利 東北大学全学教育貢献賞(2012 年度)

小泉政利 日本言語学会第 146 回大会発表賞受賞(2013 年度)

IV 教員による競争的資金獲得(2009～2013 度)

(1) 科学研究費補助金

2009 年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書語彙の比較分析とシソーラスの作成」 800,000 円

基盤研究(C) 後藤斉 研究代表者「コーパス利用のコロケーション記述の理論と方法に関する通言語的研究」 1,200,000 円

基盤研究(B) 小泉政利 研究代表者「かき混ぜ文理解における文脈の影響の認知脳科学的研究」 3,700,000 円

特定領域研究 小泉政利 研究分担者「生成文法理論に言語の社会性をリンクさせた第二言語獲得研究」 250,000 円

基盤研究(B) 小泉政利 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

若手研究(スタートアップ) 金情浩 研究代表者「日本語文処理の脳内メカニズム」

1,150,000 円

特定領域研究 金情浩 研究分担者「生成文法理論に言語の社会性をリンクさせた
第二言語獲得研究」 250,000 円

基盤研究(B) 金情浩 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠
詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

2010 年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書語彙の比較分析とシン
ーラスの作成」 500,000 円

基盤研究(C) 後藤斉 研究代表者「コーパス利用のコロケーション記述の理論と方法
に関する通言語的研究」 500,000 円

基盤研究(S) 小泉政利 研究代表者「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフ
ィールド言語認知脳科学的研究」 21,100,000 円

基盤研究(B) 小泉政利 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、
冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

特別研究員奨励費 小泉政利 受入研究者「文法形式と韻律形式の相互作用が文
処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 1,000,000 円

基盤研究(B) 金情浩 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠
詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

2011 年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の
比較研究」 1,300,000 円

基盤研究(C) 後藤斉 研究代表者「コーパス利用のコロケーション記述の理論と方法
に関する通言語的研究」 300,000 円

基盤研究(S) 小泉政利 研究代表者「OS 型言語の文処理メカニズムに関するフ
ィールド言語認知脳科学的研究」 68,800,000 円

基盤研究(B) 小泉政利 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、
冠詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

特別研究員奨励費 小泉政利 受入研究者「文法形式と韻律形式の相互作用が文
処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 900,000 円

若手研究(B) 金情浩 研究代表者「外国語学習レベルの変化が脳内処理に与える
影響」 1,500,000 円

基盤研究(B) 金情浩 研究分担者「敏感期以降における日本人英語学習者の、冠
詞、時制の獲得に関する理論的・実証的研究」 250,000 円

2012年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の比較研究」 900,000円

基盤研究(S) 小泉政利 研究代表者「OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 23,100,000円

特別研究員奨励費 小泉政利 受入研究者「文法形式と韻律形式の相互作用が文処理に与える影響についての神経心理言語学的研究」 900,000円

2013年度

基盤研究(C) 千種眞一 研究代表者「アルメニア語新約聖書における談話戦略の比較研究」 700,000円

基盤研究(S) 小泉政利 研究代表者「OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」 35,80,000円

(2)その他

2009年度

独立法人 科学技術振興機構 受託研究費 小泉政利 研究代表者「研究題目：母語獲得過程の縦断的研究」 6,060,600円

東北大学大学院文学研究科長裁量経費 小泉政利「公開シンポジウム 統語構造と文脈—言語認知脳科学の可能性—」(高度副専攻としての「言語認知脳科学コース」組織化に向けて) 1,000,000円

2013年度

東北大学大学院文学研究科長裁量経費 千種眞一「日本歴史言語学会第3回大会における講演会開催」 200,000円

V 教員による社会貢献(2009～2013年度)

千種眞一

2010年10月第3期齋理蔵の講座「辞書論から見た大槻文彦の『大言海』」

後藤斉

2006年度～2010年度 科学研究費特定領域「日本語コーパス」外部評価委員

2009年5月3～5日 第42回エスペラントセミナリーオ・仙台 2009講師 (財団法人日本エスペラント学会主催、仙台市)

2010年5月29日、宮城県宮城野高等学校特別講座「学問の世界」において「言語学の世界」を講義

2011年6月 財団法人日本エスペラント学会「エスペラントの日」記念講演「エスペ

ラント言語文化史の試み」

2011年7月 宮城県仙台第一高等学校において、東北大学公開講座「辞書学の試み」

2011年9月 みやぎ県民大学において講義「ことばをとらえる ―コーパスの可能性―」

2011年10月 日韓共同開催エスペラント大会において講演「日韓をつなぐエスペラント―大山時雄とその時代」

2011年10月 第53回東北エスペラント大会記念講演「吉野作造 ―エスペラントの先駆者」

2012年～ 人間文化研究機構国立国語研究所外部評価委員会委員

2013年10月 第100回日本エスペラント大会記念講演「日本近代史のなかのエスペラント」

2013年10月 宮城県石巻高校において「文学部の学問 ―言語学を例として」を講義

小泉政利

2004年度～ NPO 法人 脳の世紀推進会議 会員

2009年度 科学研究費補助金審査委員

2009年4月 「外国語での読み、書き、話すについて(企業との対談3)」、『考えるということ』(東北大学文学部・文学研究科)vol.4, 10-16.

2009年7月18日 公開講演「言葉を生み出す脳の働き」第7期有備館講座:東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー、大崎市岩出山文化会館

2010年7月28日 公開講演「言葉を理解する脳の動き」東北大学オープン・キャンパス

2010年度 筑波大学研究戦略イニシアティブ推進機構分野別評価委員

2011年7月2日 公開講演「もろい男としぶとい女:ことばの認知脳科学」第4期斎理蔵の講座、丸森まちづくりセンター

2011年度 筑波大学研究戦略イニシアティブ推進機構分野別評価委員

2012年2月3日 公開講演「ことばの認知脳科学:もろい男としぶとい女」、平成23年度第8回「高森塾」、高森市民センター

2012年度 国立民族学博物館機関研究プロジェクト審査委員

2013年度 東北大学広報誌『まなびの杜』2013年夏号に「言葉遣いのユニバーサデザイン」を寄稿

2013年度 東北大学全学教育広報誌『曙光』に「全学教育の意義とは

－「言語としての手話入門」の実践から－」を寄稿

2013年8月23日 教員研修講演「言葉遣いのユニバーサルデザイン」宮城県立聴
覚支援学校小牛田校

VI 教員による学会役員等の引き受け状況(2009～2013年度)

千種眞一

日本歴史言語学会副会長(2011年度以降)

後藤斉

日本ロマンス語学会理事(2001年度～現在)、編集委員長(2009年度～)

日本言語学会評議員(2009年度～)、第141回大会実行委員(2010年度)

Corpora, Editorial Board (2006年度～)

Esperanto Studies, editor

小泉政利

日本言語学会評議委員 (2006年度～)

Journal of East Asian Linguistics, Editorial Board (2006年度～2011年度)

日本言語学会広報委員 (2009年度～2011年度)

言語科学会運営委員 (2010年度～)

Studies in Language Sciences, Action Editor (2010年度～)

Language Acquisition, Editorial Board (2011年度～)

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当(2013年度)

1 大学院授業担当

教授 千種眞一

1学期 言語学研究演習 I 言語解析学研究演習 I 課題研究

2学期 言語学研究演習 II 言語解析学研究演習 II 課題研究

教授 後藤斉

1学期 言語学研究演習 I 言語解析学研究演習 III 言語解析学特論 I
課題研究

2学期 言語学研究演習 II 言語解析学研究演習 III 言語解析学特論 II
課題研究

准教授 小泉政利

1学期 言語学研究演習 I 言語解析学研究演習 V 人文社会科学研究

課題研究

2 学期 言語学研究演習 II 言語解析学研究演習 VI 人文社会科学研究

課題研究

講師 蝦名大助(非常勤講師・神戸夙川学院大学)

集中講義 言語学特論 I

講師 菊澤律子(非常勤講師・国立民族学博物館)

集中講義 言語学特論 II

2 学部授業担当

教授 千種眞一

3 セメスター 現代言語学概論 現代言語学基礎演習

4 セメスター 現代言語学概論

5 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習

6 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習

教授 後藤斉

1 セメスター 人文社会総論

3 セメスター 音声学 現代言語学基礎演習

4 セメスター 音声学

5 セメスター 言語交流学各論 言語交流学演習

6 セメスター 言語交流学各論 言語交流学演習

准教授 小泉政利

1 セメスター 人文社会総論

3 セメスター 現代言語学基礎講読

4 セメスター 現代言語学基礎講読 人文社会科学総合

5 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習

6 セメスター 現代言語学演習 言語交流学演習

講師 蝦名大助(非常勤講師・神戸夙川学院大学)

集中講義 現代言語学各論

講師 菊澤律子(非常勤講師・国立民族学博物館)

集中講義 現代言語学各論

3 共通科目・全学科目授業担当

准教授 小泉政利

- 1 セメスター 全学教育・カレントトピックス・言語としての手話入門
2 セメスター 全学教育・展開科目・言語学
全学教育・カレントトピックス・言語としての手話入門
3 セメスター 全学教育・展開科目・言語学

2) 他大学への出講(2009～2013 年度)

千種眞一 教授

- 2009 年度 宮城学院女子大学
2010 年度 宮城学院女子大学
2011 年度 宮城学院女子大学
2012 年度 宮城学院女子大学
2013 年度 宮城学院女子大学

後藤斉 教授

- 2009 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
2010 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
2011 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
2012 年度 東京外国語大学、宮城教育大学
2013 年度 東京外国語大学、宮城教育大学

小泉政利 准教授

- 2009 年度 宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北学院大学
2010 年度 宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北学院大学
2011 年度 宮城学院女子大学、東北文化学園大学、東北学院大学、
関西学院大学
2012 年度 宮城学院女子大学、東北文化学園大学、北海道大学
2013 年度 宮城学院女子大学、東北文化学園大学

金情浩 助教

- 2009 年度 東北福祉大学、宮城学院女子大学、尚綱学院大学
2010 年度 東北福祉大学、宮城学院女子大学、尚綱学院大学
2011 年度 宮城学院女子大学、尚綱学院大学